

このたびは、国際時間学会会長のシュタイネック・ラジ会長先生をはじめとして、チューリッヒ大学 TIMEJ プロジェクトチームをお迎えして、時間学国際シンポジウムを開催できたことをお喜び申し上げます。今回は、私自身は、他学会の役員としての業務と体調の問題で、残念ながら参加できませんでしたが、交歓会であいさつを読み上げていただけたということで、感謝しております。

私が会長を務める日本時間学会は、本シンポジウムを共催し、3日間のシンポジウムの休憩の茶菓など提供させていただきました。シンポジウムの間、シンポジストや参加者の中で盛んな議論が行われ、有意義な意見交換が行われたことと思います。山口大学時間学研究所は、日本における時間学研究の拠点の一つであり、その地で本国際シンポジウムを開催できたことは、日本の時間学研究における国際交流のきっかけとなるものであったと思います。

日本時間学会も、今後いっそいう国際的な交流を進めたいと考えております。来年度の7月に開催される国際時間学会ロサンゼルス大会においては、シンポジウムを開くことなど、計画しております。シュタイネック先生をはじめとして、今回の国際シンポジウムの参加者にも、またそうした機会にお会いできるものと期待しております。

今後の皆さまの研究の一層のご発展を祈念しております。今回は、会の成功、おめでとうございます。

日本時間学会会長 千葉大学人文科学研究院教授 一川誠